



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2019年1月13日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:2名(うち子ども0名)、

指導員:4名

テーマ 「植物の冬越し」

今の時期、落葉樹の葉が落ち、冬芽や葉痕、枝についたミノムシや鳥の巣などが目立つようになります。また、地面には、緑色あるいは赤みを帯びた色のロゼットが張りついています。今回は、そういうものを探して園内を回りました。

レンギョウの枝にはオオミノガの蓑がいくつもぶら下がり、桜の枝にはチャミノガの蓑がくっついていました。ヤドリハエに寄生されて一時期数が減少していたミノムシの仲間もこのところ次第に復活しつつあるようです。

桜の林の下では、タンポポ、ブタナ、チチコグサ、ウラジロチチコグサなどキク科の草のロゼットがたくさんありました。形状がよく似たロゼットも、触ったり、ルーペで拡大してみたりすると、葉の質感、毛の有無など、違いが分かります。

他にも、スイバ、オオバコ、アレチマツヨイグサ、コウゾリナなどのロゼットを見ることができました。

こんな寒い時期でも、既に花を付けている植物もありました。ナズナ、ホトケノザなどはよく見られますが、駐車場の脇ではユキヤナギの小さな白い花が咲いていました。遠くから見た時はカイガラムシかと思いましたが、近づいてみたら花で、蕾も膨らんでいました。また、川原ではロゼット状の葉の中心から短い花茎をのばし、イヌナズナが小さな花と蕾をつけていました。大野極楽寺公園ではミヤマウグイスカグラのピンクの花が10数輪開いていました。海上の森のヤマウグイスカグラもそうですが、この仲間は花の期間が長いようで、まだ固い蕾もたくさんありました。先月見られたベニバナトキワマンサクの花もまだ残っていました。

野鳥もハヤブサやオオタカが上空を飛んだほか、木の枝にとまったツグミ、シメ、カワラヒワ、コゲラなどを近くでじっくり見ることができました。

木々の枝は葉芽が膨らんだためか何となく緑がかって見え、アメリカハナノキやコブシの花芽も膨らんでいて、寒い中にも春が近いことが感じられました。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥:ヒヨドリ、スズメ、キジバト、アオサギ、トビ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、メジロ(声)、ウグイス(声)、アオジ(声)

虫:ナナホシテントウ、ヨコヅナサシガメ

花:セイヨウタンポポ、ニホンタンポポ、オオイヌノフグリ



(観察会のようす)



アレチマツヨイグサのロゼット



イヌナズナの花



オオミノガの蓑



コゲラ